



ATRが開発した感情翻訳ソフト（ATR提供）

土佐さんは「このソフトは、文
字情報で補えない心の状態を表現
でき、気持ちの行き違いも解決
される。文脈で微妙に変わる細
やかな感情も伝わるように改良
したい」と話す。商品化の協力で
できる企業を募集中。問い合わせは
土佐さんのメール（tosa@mic
.atr.co.jp）。

関西文化学術研究都市のATR
知能映像通信研究所（京都府精華
町）は、電子メールの受信画面に、
メッセージ内容に合ったキャラク
ター映像が表示されるソフトを開
発した。メールでの意思疎通を円
滑にするのが狙いで、改良を加え
て近く商品化する。
開発したのは同研究所の土佐尚
子・客員研究員で、自作の「コンピ
ューター画像「ニユーログバイビー」
をキャラクターに使った。テ
ンプトは「うれしい」「悲しい」
など九つの感情に分類される、一
万語からなる「感情単語データベ
ース」を利用し、メッセージのう
ち、送り手の思いが感じられる単
語を自動的に抽出。これをもとに
表情、振る舞い、背景が各五十種
類の「ふるまいデータベース」か
ら、メッセージにふさわしいキャラ
クターの映像を瞬時に選ぶ。

受け手のパソコン画面にはメ
ールの横にバイビーが登場。赤ちゃん
に似た声で「うれしい」と手
を振つたり、「うれしい」と万歳
をしながら宙返りしたりして感情
を表現。表情や振る舞い、背景な
どが言葉のニアランスと違えば、
送り手が自分で変更ができる。
受信者は、バイビーの動きを見
ながら文章に目を通すので、送り
手の思いが伝わりやすく、直接的
には言いにくい感情も表現しやす
いといふ。英語のメールにも対応
できる。

メールの感情を動画に

形態に基づく
系統図

DNAの分析に
基づく系統図